

4. 研究会「講師」からの思い出と祝辞

祝 100 回 私と自立研究会との出会い

丹羽 喜代子

(第 20 回例会講師 横浜市泉区サービス課保健師)

淡路・阪神大震災の救援活動がご縁で、森山さんからのお電話を頂き、第 20 回の定例会でお話をさせていただいたのがきっかけでした。

その後、泉区に転勤となり、10 年以上森山さんの活動を身近に拝見させていただきました。泉区の脳血管障害者の地域ぐるみ支援体制、自立に向けた取り組み等、森山さんからの助言指導の結果があつてこそと、

思っております。

脳血管障害者の方だけの集まりの場に止まらず、ご自身の町内会での活躍、泉区民会議の福祉保健部会等で精力的に活動されている姿をお見かけし、その意欲、エネルギーには敬服しております。

今後、ますますのご活躍を期待しております。

祝 100 回 100 回記念おめでとう

橋本 三鈴

(『脳卒中後の生活』編集者)

片マヒ自立研究会の方々と出会って十余年、当初からの変わらぬおもいがある。

「もし、自分が同じ病気で倒れたら……」
(避けたいことだが)

「他の誰よりも 1 分は早く立ち直ることが出来る！」

そうしなきゃ出会った意味がない、と。先輩たちがこう生きればいいんだよと、教えてくれている。回り道をしなくても生きる知恵、生活の知恵をいただける。

打ち出の小槌のように次々と出てくる生活の知恵や生きるヒント。

労せずそれを実行できる (はず)。とても得した気になる。いきなり障害の受容もあるかもしれない。

ここまで書いて「ハタ」と気がついた。教えてくれているのはそれだけじゃない。倒れないうちにやることがあるだろうって。あるある。規則正しい生活に、運動、食事管理……それがなかなか難しい。

皆様に出会えたことに感謝！

次なる 200 回記念に向けて、ますますのご発展、ご活躍を！